



区民

かわら版

敬老の日 100歳 おめでとらごさいます

明治43(1910)年は、ハレー彗星が地球に接近した年でした。日本でも、ハレー彗星の接近は話題になり、地球に影響を及ぼすのではと心配されたり、宇宙への夢を馳せ“ホーキ星”と呼ばれたりし、天文に関心を持たれた時代でした。

この年(明治43年4月～明治44年3月)にお生まれになり、100歳になられた方は区内では右記のとおりです。

※右記以外に氏名公表不可の方が1名おられます

問合せ先 区支援課支援第二担当 (☎592-3222)

赤阪 コト	さん	山階南学区
芥川 君代	さん	百々学区
浅野 幸枝	さん	百々学区
東 勇次郎	さん	小野学区
石田 喜美子	さん	音羽川学区
伊地智 薫	さん	小野学区
岩崎 玉恵	さん	鏡山学区
岩野 ヨシエ	さん	音羽学区
片山 茂子	さん	百々学区
相良 志ずこ	さん	大塚学区
芝田 善一	さん	大塚学区
高橋 重	さん	安朱学区
土橋 與一郎	さん	陵ヶ岡学区
中野 ワサ	さん	勧修学区
野村 つや	さん	山階学区
三木 千代	さん	百々学区
森 春子	さん	百々学区
山本 かつ	さん	山階学区

(五十音順・8月10日現在)

みんなでつくろう 新しい山科区基本計画

3 まちの魅力・観光

今回は、京都薬科大学で学ぶ大学生と山科中央老人福祉センターの講座を受講された方々に、「まちの魅力・観光」についてお話を伺いました。

● 京都薬科大学に通う学生から

山科の魅力は

- ・勧修寺など、歴史あるお寺が残っていること。
- ・学生の間で密かに“グルメ通り”と呼ぶ美味しいお店が立ち並ぶ通りが山科駅の近くにあり、友達複数で行く。
- ・卒業しても京都に住むなら、山科！

課題に思うところ

- ・サークルのコンパなど大勢で集まる場合、山科には大勢入れるお店が少ないので、市内中心部へ行ってしまおう。

こうすればよくなる

- ・勧修寺・随心院は、それぞれ恋・美容に効くといわれているが「パワースポット」として周知すれば女性中心に観光客が増えるのでは。
- ・小さくてもよいので映画館があれば。



● 山科中央老人福祉センターの講座を受講されている方々から

山科の魅力は

- ・東海道が通り、交通の要所として栄えるなど、歴史とまちが密接に関わっている。
- ・毘沙門堂など、歴史ある寺社がすぐそばにある。
- ・新旧入り混じった住民がいるが、新しい感覚を大切にしながら団結しようとする住民(人)の魅力がある。
- ・“もてなすくん”のキャラクターはよい！

課題に思うところ

- ・外環状線、1号線などは整備されたが、昔からある道は手付かずで狭い。
- ・山科のことを山科の人が知らない。

こうすればよくなる

- ・山科の玄関口である山科駅に降り立った時、すぐに分かるような観光案内板があれば。
- ・山科のことをよく知ったボランティアが主体となり観光案内をする。



若者、ベテランのそれぞれの視点からまちへの愛着あふれる意見をいただきました。

問合せ先 区総務課企画広報担当 (☎592-3066)

全国大会へ出場

ゲートボール：百々チーム(小・中学生、高校生)
バレーボール：陵ヶ岡チーム(小学生・男子)



7月31日、8月1日に埼玉県熊谷市で開催された「第15回全国ジュニアゲートボール大会」に百々ゲートボール連合所属のフェニックス京都(高校生)とフェニックス山科(小・中学生)の2チームが京都府代表として出場されました。両チームとも同大会の常勝チームとして決勝トーナメントに進みましたが、惜しくも敗退しました。

8月12日、13日に東京都で開催された「第30回記念全日本バレーボール小学生大会」に陵ヶ岡チームが男子の京都府代表として出場されました。陵ヶ岡チームは府大会決勝で見た正確なトスや力強いスパイクを武器に善戦しましたが、惜しくも決勝進出を逃しました。

各チームとも今後の活躍を期待しています。



第22回市民スポーツフェスティバル

第57回京都市ソフトボール大会

第20回京都市壮年ソフトボール大会

7月25日、厳しい暑さの中、岩倉東公園グラウンドにて、市ソフトボール大会が開催されました。

一般の部の陵ヶ岡体振チームは、創部6年目で初の市大会への出場を果たしました。大いに健闘しましたが、攻守共に強さを誇る桃山東(伏見区)に0-8で敗れました。

壮年の部の音羽川体振チームは、最終回ツアアウトからの猛攻で2点差まで詰め寄りましたが、惜しくも5-7で七条第三(下京区)に敗れました。

来年の活躍が期待されます。
問合せ先 区まちづくり推進課 (☎592-3088)



もっと
知りたい!

山科の大学

第3回 京都橘大学「地域の方々と歩む看護実践異文化国際研究センター」

京都橘大学看護学部は、平成17年に開設され、現在は400名近くの学生が在籍し、「人に寄り添う看護」を創造し実践できる看護基礎教育を学んでいます。

また、看護学部は看護実践異文化国際研究センター(以下「センター」といいます)を併設し、社会貢献事業、国際交流事業、情報発

信事業などの活動も行っています。社会貢献事業では、地域の皆さんのお役に立ちたいと考え、平成17年度から10月の大学祭で「たばな健康相談」を開催しています。身体計測、血圧測定、骨密度測定などの健康チェックやご家庭のお味噌汁の塩分濃度チェックなどを行い、その結果から簡単な健康相

談を行っています。毎年150名近くの方々に越えいただき、継続して参加される方も増えています。今年度も10月31日に開催予定です。

また、昨年度に引き続き公開講座を開講します。昨年度開講した「ストレスを緩和する東洋の智慧」には、多くの方のご参加がありました。今年度も皆さんに学んでいただける講座をご用意しています。その他センターでは、国際協力や異文化理解などに関する蔵書をご覧いただくことができますので、ぜひご利用ください。

看護学部では、学生が山科区老

人クラブ連合会開催のエコウォーキングに参加したり、地域の皆さんが「お助けたい」として学生の血圧測定や呼吸訓練などの練習に参加していただいたりし、学生教育に対して地域の方々の多大なご協力をいただいています。今後も更に、皆さんとの交流を深めながら、地域の学生教育やセンター活動に取り組んでいきます。

京都橘大学看護学部
堀 妙子氏 執筆

